

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0272500760
法人名	社会福祉法人秋葉会
事業所名	グループホーム青い空
所在地 (電話番号)	〒039-2402 青森県上北郡東北町大浦字境ノ沢127 (電話) 0176-56-3531

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 10月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要( 9月 19日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 92.7 歳	最低	78 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは田畑に囲まれ住宅地から離れた場所にある。買い物やドライブなど外出する機会を設けたり、地域の行事に参加し住民とふれあう機会を大切にしている。一人ひとりその人らしさを大切にという理念の基、利用者のあるがままを全職員で受け止めている。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ケアプランの記録漏れについて改善されている。不快な臭いについては特に感じる事が無く、配慮が感じられる。浴室やトイレの戸もきちんと閉められ、プライバシーの確保がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組みや外部評価の報告などを情報交換している。また、提出された意見は全職員で運営やケアの参考になっている。しかし、委員の高齢化により会議への参加が困難になってきているという現状である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>家族が話しやすい環境作りをスタッフ全員で心がけ、面会時には話し会えるようにしている。また、話せない方のために苦情受け付け用紙を設置し対応に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>田畑に囲まれており、隣近所との交流は少ないが畑にきた方に積極的に挨拶するようスタッフ全員心がけている。収穫した野菜をいただいたり、外出した利用者についての情報をいただくこともある。地域の行事には積極的に参加し、また、側溝清掃や事業所周辺のゴミ拾いを職員で行っている。介護教室の講師をしており、今年キャラバンメイトにもなり認知症普及活動に取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他、職員間で話し合い独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝えている。また、職員会議でも理念にそって支援できているかを確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣近所とは離れているが、農作業中の方と挨拶を交わしたり野菜をいただくなどの交流がある。また、利用者が一人で外出していると畑作業をしている方が事業所へ連絡してくれる。地域の行事には積極的に参加し、事業所周辺のゴミ拾い・側溝清掃活動を年2回行い地域に貢献している。介護教室では講師を努め、今年はキャラバンメイトとなり認知症普及活動に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価をスタッフ全員で取り組み、何が求められているかを再確認し、サービスの質の向上に努めている。外部評価も全スタッフで検討し改善につなげている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年間計画に盛り込まれ、2ヶ月に1回定期的実施されている。検討事項は話し合い報告し、評価結果についての意見をサービスの向上につなげる取り組みをしていた。しかし、9月に入り参加者不足のため実施できない状況になってしまった。</p>		<p>推進委員の高齢化により会議への参加が困難になってきているという。近隣・住民・家族会など地域資源を活用し委員の増員を期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>実態を共有できるように機会あるごとに相談し、課題解決に向け協議できる体制ができている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的に内部研修の機会を設け、権利擁護に関する制度について学んでいる。現在利用している方はいないが、説明や相談に応じる体制はある。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な内部研修のほか、外部講師を招き研修の機会を設け、虐待防止について学んでいる。職員同士指摘し合い、共通認識をもち日々虐待防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書に基づいて、運営方針を利用者、家族にわかりやすく説明し、意向などを確認している。特に医療連携体制や体調変化時には時間をかけ説明し、同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に暮らしぶりや身体状況について報告している。金銭管理については出来るだけ家族で行ってもらい、お小遣いについては毎月出納帳を送付している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時に意見や不満、要望など会話をしながら引き出すようにしている。また、苦情受け付け用紙を設置している。苦情があった場合の対応フローチャートがあり、スムーズに対応出来るようにしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの環境で暮らせるよう異動は最小限としている。やむを得ず異動するときは職員の連携を通してスムーズに移行できるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修・新人にはマンツーマンで育成するなど積極的に取り組んでいる。また、職員の段階に応じ外部研修にも参加し、質の向上につなげている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで交流を図ってきたホームの管理者が変わったことで交流が出来なくなり、同法人グループホームとの交流や意見交換会となっている。		他法人グループホームと、できる範囲での交流を広めていけることを期待します。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスが利用できるよう本人、家族に見学していただき雰囲気に馴染めるようにしている。また、入居時は家族と一緒に過ごす時間を多くしてもらったり、使い慣れた食器や家具を持参してもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように日常生活での本人の得意なことを探し、役割を分担している。また、昔ながらの知恵や習慣などを話題に学び合う気持ちを大切にコミュニケーションを図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活・会話のなかで把握するよう努めている。家族ともよく話し合い一緒に支援していくよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向をふまえて、日常生活の情報や医療機関などの情報を参考に、全職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで見直しをするとともに、変化や状況に応じその都度、家族や関係者の意見を聞きながら現状に即した計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族が安心して生活できるよう状況や要望に応じて通院や送迎など柔軟に対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・家族と話し合い、希望するかかりつけ医になっている。受診はスタッフが対応しているが、必要時は家族も同行している。また、訪問看護との連携をとりながら週1回の往診を利用し、適切な医療が受けられている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人・家族の希望をかかりつけ医や訪問看護と話し合い、決めていく方針の共有ができています。また、ターミナルの対応ができる協力病院がある。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけはプライドを傷つけないよう配慮されている。また、家族のプライバシー・プライドについても配慮され、新人スタッフに教育されている。個人ファイルの背表紙は番号のみの記載でプライバシーの確保に努めている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の望むことに配慮し、その日・その時の気持ちを尊重しできる限り個別性のある支援を行っている。スタッフ同士でも声をかけ合い意識の向上を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の高齢化進んでいるが、作る・盛り付け・片付け、それぞれ利用者ができることをスタッフと一緒にやっている。スタッフも一緒にテーブルで食事をとることで、食事と会話を楽しんでいる。食器類も自力で食べられるように工夫されている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は決まっているが、その時の希望を確認し入浴していただいている。入浴拒否があるときはスタッフ同士協力しながらタイミングを見計らい、楽しんで入浴できるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりのできそうなことを探し、やってもらえるようお願いし、必ず感謝の気持ちを伝えている。また、行事や外出などの楽しみごとは利用者と相談しながらやっている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に添って散歩やドライブ、自宅訪問など外出支援を行っている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施している。また、日々の申し送りのなかでもその日を振り返り、拘束をしていなかったかの確認をし、全職員で拘束をしないケアを徹底し取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、外出しようとしている利用者がいるときは一緒に付き添うようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に併設の事業所と避難訓練を行っている。運営推進会議でも協力を得られるよう働きかけ、緊急時におけるホットラインも確立している。災害時の非常食も準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、本人の習慣の摂取量を把握している。また、嗜好も把握しメニューを作り、併設の栄養士に栄養バランスをチェックしてもらっている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、全職員で内部研修をし予防・対策に努めている。また、インフルエンザ対応は家族・かかりつけ医の協力を得て、利用者・スタッフ全員予防注射をうけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の小上がりやソファなど、好みの場所で過ごせる工夫があり、一人ひとりが居心地良く過ごせる環境作りに努めている。不快な臭いはなく、浴室やトイレの戸もきちんと閉められている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団があり、居心地良く過ごせるように配慮されている。		

 は、重点項目。